

日産財団理科教育助成

「価値ある体験を生み出す、地域の自然を生かした環境教育」

神奈川県相模原市立麻溝小学校 門倉 松雄
内田 和宏

I. 研究の目的

本校の抱えていた課題

本校の学区は、歴史・文化的にも自然的にも環境に恵まれている。生活科、理科、総合的な学習の時間などで、これらの自然環境に関わる時、児童は目を輝かせながら活動をする。しかし、一方で教師の異動に伴い、いくつかの体験活動はその本来の目的や価値が引きつがれず、形骸化している傾向が見られた。教師にとっては「年間計画に位置づけられているから行う」、児童にとっては「よく分からないけど、先生が言うからやってみる」、言わば何のためにやっているのかわからずに体験させている（している）という状況が生まれていた。本校の学区にある自然環境をより効果的に活用するためには、これまで行われてきた活動が児童にとって「価値ある体験」であるかどうかを再度見直し、目的意識をもって取り組むことでより効果的な体験とし、地域に関わる意識の定着を目指した。

II. 研究の内容

1. 目指す児童の姿と手だての再考

本校の体験が本来どのような子どもを育てようとしていたのかを改めて考え、児童が地域のことを好きになり、地域のことをよりよく知ろうとする態度や、将来にわたって地域に関わっていこうとする気持ちをもてるようにすることが本来のねらいであると考えた。

目指す児童の姿

- 地域のことを好きになり
地域のことをよく知ろうとする
- 将来にわたって地域に関わっていこうとする

①体験の「価値」の見直し

目指す児童の姿に迫るために、児童にとっての体験の「価値」とは何か、どのような体験が必要であるかを再検討し、「価値ある体験」として、各学年の年間の体験に位置づけようと考えた。

「価値ある体験」

- ①児童が楽しみ、主体的に関われる体験
- ②新たな発見や驚きがある体験
- ③将来に向けて夢や希望を感じられる体験

②地域の自然環境と関わる活動が、児童にとって「価値ある体験」となるように活動内容と授業展開を系統性をもたせながら再検討する。

各学年で行っている活動が「価値ある体験」であるかどうか、また、内容や授業展開のどの部分を修正すれば「価値ある体験」になるかを明らかにし、各学年で検討した内容をもとに、系統性を考慮しながら「価値ある体験を生み出す、地域の自然を生かした環境教育」の学習プランを作成した。また、作成に当たっては毎年次年度に向けた改善がしやすいよう、できるだけ簡略化を心がけた。

○系統性を意識した各学年のテーマと体験内容

<p>○1年生 (初めての自然) 「麻っ子農園や相模原公園での活動や季節の自然に触れる活動 (生活科)」</p>	<p>○2年生 (初めての栽培) 「サツマイモの栽培活動や地域の自然にかかわる活動 (生活科)」</p>	<p>○3年生 (地域の自然) 「道保川での植物や動物とかわる活動 (総合的な学習の時間)」</p>
<p>○4年生 (自然の変化) 「季節と生物 (理科)」 〈道保川や四季を通じた校庭の自然観察〉</p>	<p>○5年生 (本格的な栽培) 「麻っ子農園での稲作体験 (総合的な学習の時間)」</p>	<p>○6年生 (社会と自然) 「地域を見つめ直す活動 (総合的な学習の時間)」</p>

○テーマをもとにした各学年の年間計画

年間の中で「価値ある体験」①児童が楽しみ、主体的に関われる体験、②新たな発見がある体験、③将来に向けて夢や希望を感じられる体験、の3つが効果的に配置されるよう計画した。

第1学年 26年度年間計画

活動内容	体験の項目	目指す子どもの姿	子どものふり返り・発信の手立て
1学期 春見つけ	れんげつみ② どろんこ遊び①② 親水公園①②	れんげつみやどろんこ遊びを通して、麻溝地区には水田や川といった、特徴的な自然があることがわかり、守る方法についても考えられる。	子どものふり返り・発信の手立て ・生活科カードに記入して、お互いに発表しあう。 学年の写真として撮ったものを掲示したり、児童の感想を学年便りに載せる。
2学期 秋みつけ ふれあい動物園	どんぐり拾い① じゅず玉とり② 秋フェスタ①③ 動物とふれあい①②	じゅず玉とりや秋の木の実、葉っぱを取りに行くことで、自然の変化や豊かさに気づくことができる。	拾ってきた木の実や葉を使っての作品を発表したり、遊んだりしたことを秋フェスタとして保護者や他のクラスの友だちへ発表する。 生活科カードに記入する。
3学期 学習発表会 年長さんとの交流会	たこ揚げ① 竹とんぼこま② 普通遊びを教えるよう③	○季節を感じつつ昔ながらの遊びをすることで広い公園があることに気づくことができる。 ○年下の子に教えることで優しくしたり、2年生への自覚をもたったりできる。	・普通遊びのボランティアの方々へお礼の手紙を書く。 ・できるようになったことをカードにきょうじしたり、保護者へ発表する。 ・交流会をひらき年長さんに普通遊びを教える。

第2学年 26年度年間計画

活動内容	体験の項目	目指す子どもの姿	子どものふり返り・発信の手立て
1学期 さつまいも苗植え 春見つけ 生き物探し	学区探検② 川拾い (中段下段2カ所)の様子を知る②	麻溝地区には自然がたくさんあることに気づき、豊かな自然とふれあうことで麻溝地区のよさを理解する	生活科カードに気づきを記入していく
2学期 さつまいもほり 秋見つけ	収穫の喜びを体験する① 川拾いの自然の様子、変化を知る②	麻溝地区には自然がたくさんあることに気づき、豊かな自然とふれあうことで麻溝地区のよさを理解する	さつまいもパーティーをして収穫をしたさつまいもを味わう 生活科カードに春と比べた自然の様子など気づいたことを書かせる
3学期 冬みつけ	学区探検 まとめ①③ 川拾いの自然の様子、変化を知る②③	麻溝地区には自然がたくさんあることに気づき、豊かな自然とふれあうことで麻溝地区のよさを理解する	学区の良さを発表させる 春、秋の生活科カードを参照し、自然の変化についてなど、気づいたことを書かせる。

第3学年 26年度年間計画

活動内容	体験の項目	目指す子どもの姿	子どものふり返り・発信の手立て
1学期 社会 まちしろべ 総合的な学習 ヤゴ救出作戦	① ② ① ②	・方角ごとに地域の様子を調べることによって、川の多い学区であることや、方角ごとの特徴 (住宅地、自然が多い等) に気づくことができる。 ・「道保川を愛する会」の人々との出会いによって、地域には自然環境を守るために努力をしている人々がいることに気づくことができる。 ・学校のプールにさまざまな種類のヤゴがいることに気づき、つかまえたヤゴの飼いやなどを調べて、飼育することができる。	・ワークシート ・学区地図 ・ワークシート
2学期 理科 いろいろな こん虫の観察 総合的な学習 愛する会の 講話 道保川での 自然体験活動	①② ②③ ①②③	・校庭や学校の周りで昆虫採集を行うことで、色々な生き物がいることに気づくことができる。 ・道保川についての話を聞くことで色々な生き物がいることや愛する会が行っている自然保護の活動について知る事ができる。 ・道保川の自然活動では、実際に川の中に入ることで、地域の豊かな自然を感じる事ができる。	・ワークシート、ノート体験 ・ワークシート ・新聞、劇、歌など
3学期 総合的な学習 公園の 清掃活動 道保川の 清掃活動	①③ ①③	・道保川の清掃活動・地域の公園の清掃活動を行うことにより、自分たちの使う公園を大切にしようという気持ちを持つことができる。 ・ポストナードで自然環境を守る大切さを地域に呼びかけることができる。 ・道保川の清掃活動で、進んで清掃活動に参加することができる。	・ワークシート ・ポスター

第4学年 26年度年間計画

活動内容	体験の項目	目指す子どもの姿	子どものふり返り・発信の手立て
1学期 「麻溝小の自然マップを作る」 麻溝の自然を知ろう (春～夏) ○観察会を開こう	①②③ ② ○	麻溝地区の自然に主体的に関わることにより、新しい発見をし、特徴を観察カードに記録することができる。 1年生に向けて自分の発見したことを伝えながら、グループやペアで活動できる。	○1学期に、麻溝のみんなが見て、すぐわかるマップ、それを参考に動植物を探しに行ける特徴を観察カードに記録することができる。 ○観察カード、春の自然マップ (ふり返りの手立て) ○1年生と観察会 (発信)
2学期 麻溝の自然を知ろう (夏～秋) ○観察会を開こう	② ○	麻溝地区の自然に主体的に関わることにより、新しい発見をし、特徴を観察カードに記録することができる。 1年生に向けて自分の発見したことを伝えながら、グループやペアで活動できる。	○観察カード、夏、秋の自然マップ (ふり返りの手立て) ○1年生と観察会 (発信の手立て)
3学期 麻溝の自然を知ろう (秋～冬) 麻溝の自然マップを作る (来年度の1年生に残そう) (発表会)	② ○	麻溝地区の自然に主体的に関わることにより、新しい発見をし、特徴を観察カードに記録することができる。 調べてきたことを自然マップにまとめることができる。 1年生に向けて自分の発見したことを伝えることができる。	○観察カード、冬、春の自然マップ (ふり返りの手立て) ○「麻溝小学校自然マップ」各クラスあるいは各班で、春から冬までのマップをまとめ、1年生に向けて発表会を開く。

第5学年 26年度年間計画

活動内容	体験の項目	目指す子どもの姿	子どものふり返り・発信の手立て
1 学期 田んぼの観察 田起こし しろかき 田植え かかし立て 稲の観察	①②	・田んぼの様子を観察する過程で、四季の移り変わりをイネの生長や田んぼにいる動植物から感じることができる。 ・麻溝地区の稲作と全国各地の稲作について調べ、比べる活動を通して、麻溝地区の特長をつかむことができる。 ・体験活動を主体的に行うことができる。	・観察、体験ごとにふり返りシートを記入させる。(自由記述または、イネの生長や田んぼに住む動植物など視点をもたせて記述) ・観察時の様子。(観察) ・麻溝地区と全国各地の稲作について調べ、ワークシートやポスター形式にして記述。
2 学期 稲の観察 稲刈り 脱穀 餅つき	①②	・田んぼの様子を観察する過程で、四季の移り変わりを稲の生長や田んぼにいる動植物から感じることができる。 ・麻溝地区の稲作と全国各地の稲作について調べ、比べる活動を通して、麻溝地区の特長をつかむことができる。 ・体験活動を主体的に行うことができる。	・観察、体験ごとにふり返りシートを記入させる。(自由記述または、イネの生長や田んぼに住む動植物など視点をもたせて記述) ・観察時の様子。(観察) ・麻溝地区と全国各地の稲作について調べ、ワークシートやポスター形式にして記述。
3 学期 収穫した米を 使った調理実習	①③	・「収穫した米をどうするか」について、目的をもって主体的に考え、創造的な課題を設定することができる。 ・課題解決に向けて、主体的な準備・活動を行うことができる。	・話し合いや活動ごとにふり返りシートを記入させる。 ・活動を外部に広げ、発信していく。(学習発表など)

第6学年 26年度年間計画

活動内容	体験の項目	目指す子どもの姿	子どものふり返り・発信の手立て
1 学期 麻溝を見つめ直す 日光を調べる 修学旅行 麻溝と日光を比較する	①児童が楽しみ主体的に関われる体験	他の地域の良さを知ることで、麻溝の良さを具体的に知ってほしいとする。	学年を日光の文化、歴史、自然の3グループに分け、自分が知りたいと思うグループに参加する。そこで調べた内容をポスターや写真、実物などを用いて、ワークショップ型の発表をする。 1学期の活動のふり返り
2 学期 麻溝の自然を 再発見 (天応院、当麻山無量光寺、学区を流れる川への実地調査など)	②新たな驚きや発見がある体験	麻溝の自然の特徴を理解し、新たな発見から、麻溝のすてきなところに気づく。 麻溝のすてきなところを古くから守り続け、今も守っている人がいることに気づく。 麻溝を好きになる。	調べた内容をポスターや写真、実物などを用いて、ワークショップ型の発表をする。 2学期の活動のふり返り
3 学期 麻溝へアプローチ	③将来に向けて夢や希望を感じられる体験	麻溝の良さや自然環境を守る方法を考え、実行する。 これからも地域に主体的に関わってほしいと思う。	地域の良さや自然環境を守ろうとしたり、残しそうとしたり、つたえていこうとしたりする活動をする。 (伝統行事を伝えるための地域や校内でのチラシ配りやポスター掲示、自然環境を守ろうと注意喚起するポスターの設置や記念樹の設置、地域の歴史を伝えるためのパンフレット作りやポスター作りなど) 1年間の活動のふり返り

2. 自然環境の中での体験を一緒に支えてくれる地域人材を発掘する。

大学の講師、地域の農家、農協営農センター（育苗所）、河川環境管理団体への活動補助・活動協力及び講演の依頼等、「価値ある体験」に必要な地域人材を発掘した。また、次年度も引き続き協力していただけるよう、連絡時期や連絡先などの必要事項をまとめたファイルを各学年で作成し、引き継ぎ資料とした。

3. 体験だけで終わらないように、事前に目的意識をもてるようにしたり、事後に振り返ったりするなど、効果的な授業展開を工夫する。

○低学年

導入時から地域の自然に触れたり、栽培活動を行ったりするなど、体験にどっぷりとつからせる。

○中学年や高学年

事前の観察活動や、体験活動などの動機付けを行うことにより、目的意識をもって活動できるようにする。

○ふり返り活動

学習成果を友だちと共有したり、他学年や保護者等に発信したりするなどの表現活動を取り入れる。活動の協力者へお礼の手紙を書くなど、関わってくれた人達への感謝の気持ちを表す活動を行う。



Ⅲ. 研究の成果と今後の取り組み

1. 成果

○児童の思いの高まり

児童はじっくり活動する中で、「こうしたい。」という思いを高めていた。活動に対して主体的に関わり、自分事として活動することができていた。

○価値ある気づき

〈自分と自然との関わりへの気づき〉

栽培を体験したことで、食卓に並ぶ食べ物が大変な時間と手間をかけて作られることに気づいた。

また、地域の川や自然の中でたっぴりと活動することで、動植物を含む自然の連続性や、季節による変化に気づいていた。

〈自分と地域の人々との関わりへの気づき〉

農作業に携わる人々や、自然を守る活動をする人々に直接関わることで、その人達の思いや願いに触れることができた。児童は、事後にお礼の手紙を作成することで、改めて関わった人達への感謝の気持ちをもったり、自分が地域環境とたくさん関わったりしたことに気づいていた。

〈地域の中の大切な一人〉

自分たちの住む地域の歴史、文化、自然に発達段階に応じて系統的に触れることで、これからの自分たちには地域の伝統文化の受け継ぎ、伝えていく役割がある、自分にも地域のためにできることがあるのではないかと、こんな地域にしたいなどといった気持ちを抱いていた。

以上のことから、思いが高まってきた児童は、自分と自然との関わりや地域の人々との関わりから、地域を好きになり、地域をよりよく知ろうとする態度が育ってきたのではないかと考えられる。また、地域の中の一人として自覚をもつことで、将来にわたって地域に関わっていこうとする気持ちが生まれつつあると考えられる。

2. 今後の取り組み

①「価値ある体験」のさらなる充実のために

○実践効果検証方法の改善

今回の実践効果の検証には、児童の活動の様子やワークシートなどの記述内容を用いた。成果を蓄積し、「価値ある体験」の改善、充実にかしていくためには、ワークシートなどのほかに、客観的データの検証が必要になると考える。しかし、一方で教育効果は単純に数値で表せるものではないことも事実である。今後は児童の学びを反映しやすいようなアンケート内容を検討し、ワークシートなどどうまく併用して実践の効果を検証できるよう取り組んでいきたい。

○地域との連携強化

本研究の大きな目的の一つに、「将来にわたって地域に関わっていこうとする気持ちもてるようにする」ことがある。しかし、現実問題として本校で体験をした児童が、卒業後どのように地域に関わっていくかを見取る手だては無いのが現状である。将来にわたって子ども達を見とれるよう、地域とのつながりをより強くし、地域と情報を共有することで、「価値ある体験」の改善、充実にかしたい。

②校内研究への活用

本研究によって、体験の充実を図ると児童が意欲的に活動することがわかってきた。本校の児童は、生活科・理科の学習が好きであるが、自分なりに考えたり、自分から追求したりすることを苦手としている。そこで、本校の校内研究（生活科・理科）「探求力のある子どもの育成」でも、体験の充実が、児童の主体性を育てることに効果的であることをいかして体験の充実を図っていき、児童の主体的な問題解決能力を育てていきたい。